

宮崎県感染症週報

宮崎県感染症情報センター
宮崎県健康増進課
宮崎県衛生環境研究所

■ 宮崎県第 33 週の発生動向

定点医療機関からの報告総数は 660 人（定点あたり 22.2）で、前週比 116%と増加した。

先週に比べ多かった主な疾患は感染性胃腸炎と流行性耳下腺炎で、減少した主な疾患は水痘であった。

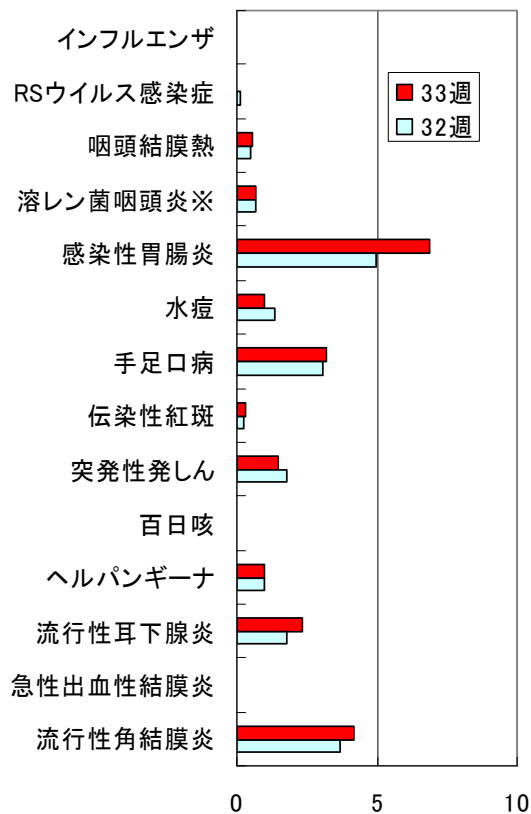
感染性胃腸炎の報告数は 247 人（6.9）で前週比 138%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（5.7）の約 1.2 倍である。小林（18.7）、中央（14.0）、都城（10.7）保健所からの報告が多く、年齢別では 6 ヶ月から 3 歳で全体の約半数を占めた。

流行性耳下腺炎の報告数は 84 人（2.3）で前週比 129%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（1.5）の約 1.5 倍と多い。日向（7.8）、延岡（7.0）保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では 3 歳から 5 歳で全体の約 6 割を占めた。

無菌性髄膜炎 2 人が延岡保健所から報告された。患者は 8 歳の男児と 0 ヶ月の女児であった。

クラミジア肺炎 1 人が高鍋保健所から報告された。患者は 70 歳代の男性で、原因菌は *Chlamydomphila pneumoniae*。

《前週との比較》



《定点あたり報告数》
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

■ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年 齢 分 布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
手足口病	5	3.2	日向 (6.0)	1歳～4歳で全体の約9割を占めた。
流行性耳下腺炎	6	2.3	日向 (7.8)、延岡 (7.0)	3歳～5歳で全体の約6割を占めた。

■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 7 例が宮崎市 (3 例)、延岡 (2 例)、小林・日向 (各 1 例) 保健所から報告された。
 - 《宮崎市保健所》・20 歳代の男性で無症状病原体保有者。
 - ・50 歳代の男性で疑似症患者。発熱、胸痛がみられた。
 - ・40 歳代の女性でその他の結核 (気管支結核)。喘鳴がみられた。
 - 《延岡保健所》・50 歳代の女性で無症状病原体保有者。
 - ・20 歳代の男性で肺結核。咳、痰がみられた。
 - 《小林保健所》・70 歳代の男性で疑似症患者。呼吸困難がみられた。
 - 《日向保健所》・80 歳代の男性で肺結核。
- 3 類感染症 : 腸管出血性大腸菌感染症 2 例が宮崎市・日向 (各 1 例) 保健所から報告された。
 - 《宮崎市保健所》・60 歳代の男性で血便がみられた。原因菌の O 血清型は 0157 (VT2 産生)。
 - 《日向保健所》・20 歳代の女性で腹痛がみられた。原因菌の O 血清型は 0157 (VT2 産生)。
- 4 類感染症 : 報告なし。
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 1 例が宮崎市保健所から報告された。40 歳代の男性で腸管外アメーバ症。発熱、肝膿瘍がみられた。国外での感染と思われる。

■ 全国第 32 週の発生动向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 10.5 で、前週比 78% であった。今週減少した主な疾患はヘルパンギーナと手足口病であった。

流行性耳下腺炎の報告数は 3,305 人 (1.1) で、前週比 88% と減少したが、例年同時期の約 1.3 倍である。和歌山県 (3.7)、香川県 (2.4)、島根県 (2.3) からの報告が多く、年齢別では 3 歳から 6 歳で全体の約 6 割を占めた。

手足口病の報告数は 4,727 人 (1.6) で、前週比 68% と減少したが、例年同時期の約 1.1 倍である。福井県 (5.7)、新潟県 (5.4)、徳島県 (3.7) からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 4 歳で全体の約 7 割を占めた。

□ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 355 例
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 1 例、腸管出血性大腸菌感染症 164 例、腸チフス 2 例
- 4 類感染症 : E 型肝炎 2 例、A 型肝炎 2 例、Q 熱 1 例、デング熱 7 例、日本紅斑熱 5 例、マラリア 4 例、レジオネラ症 10 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 15 例、ウイルス性肝炎 2 例、急性脳炎 1 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 2 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 3 例、後天性免疫不全症候群 17 例、梅毒 3 例、風疹 2 例、麻疹 6 例

■月報告対象疾患の発生動向 <7月>

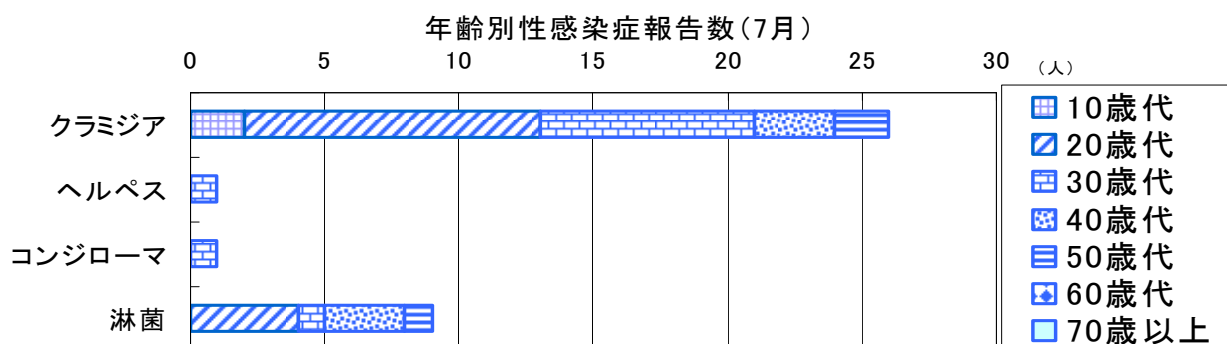
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は37人（2.9）で、前月比123%と増加した。昨年7月（3.5）の約8割と少なかった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数26人（2.0）で、前月の約1.6倍、前年の約1.2倍であった。日向（5.0）保健所からの報告が多く、男性・女性それぞれ13人で、20歳代が全体の約4割、30歳代が全体の約3割を占めた。
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数1人（0.08）で、前月の約3割、前年の約1割であった。30歳代の女性であった。
- 尖圭コンジローマ：報告数1人（0.08）で、前月の半数、前年の約2割であった。30歳代の女性であった。
- 淋菌感染症：報告数9人（0.69）で、前月と同数、前年の約8割であった。全て男性で、20歳代が全体の約4割、40歳代が全体の約3割を占めた。



【全国】 定点医療機関総数：958

定点医療機関からの報告総数は4,452人（4.7）で、前月比105%であった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,286人（2.4）で前月比100%、性器ヘルペスウイルス感染症733人（0.77）で前月比101%、尖圭コンジローマ484人（0.51）で前月比106%、淋菌感染症949人（0.99）で前月比121%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は35人（5.0）で前月比78%と減少した。また昨年7月（5.4）の約9割であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数20人（2.9）で、前月の6割、前年とほぼ同数であった。高鍋（6.0）、延岡・小林（5.0）、宮崎市（4.0）保健所からの報告が多く、70歳以上が全体の約7割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数15人（2.1）で、前月の約1.1倍、前年の約9割であった。日南（9.0）保健所からの報告が多く、70歳以上が全体の約6割を占めた。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告はなかった。

【全国】 定点医療機関総数：466

定点医療機関からの報告総数は2,586人（5.6）で、前月比94%であった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症2,084人（4.5）で前月比97%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症461人（0.99）で前月比82%、薬剤耐性緑膿菌感染症41人（0.09）で前月比129%であった。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第33週(08月16日～08月22日)

疾病名		第32週	第33週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	5	3	2	1							
	定点あたり	0.14	0.08	0.20	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	17	20	2	6	1	8		2			1
	定点あたり	0.47	0.56	0.20	1.00	0.25	2.67	0.00	0.50	0.00	0.00	1.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	24	25	7	2	8	1	2	4		1	
	定点あたり	0.67	0.69	0.70	0.33	2.00	0.33	0.67	1.00	0.00	0.25	0.00
感染性胃腸炎	報告数	179	247	20	64	24	19	56	15	7	28	14
	定点あたり	4.97	6.86	2.00	10.67	6.00	6.33	18.67	3.75	7.00	7.00	14.00
水痘	報告数	48	35	14	10	3	2	2	2			2
	定点あたり	1.33	0.97	1.40	1.67	0.75	0.67	0.67	0.50	0.00	0.00	2.00
手足口病	報告数	111	115	40	18	16	2	1	13		24	1
	定点あたり	3.08	3.19	4.00	3.00	4.00	0.67	0.33	3.25	0.00	6.00	1.00
伝染性紅斑	報告数	8	12	1	6			5				
	定点あたり	0.22	0.33	0.10	1.00	0.00	0.00	1.67	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	65	54	19	8	9	5	3	5	2	3	
	定点あたり	1.81	1.50	1.90	1.33	2.25	1.67	1.00	1.25	2.00	0.75	0.00
百日咳	報告数		1			1						
	定点あたり	0.00	0.03	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	35	36	4	4	9	9	1	1		8	
	定点あたり	0.97	1.00	0.40	0.67	2.25	3.00	0.33	0.25	0.00	2.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	65	84	21	3	28		1			31	
	定点あたり	1.81	2.33	2.10	0.50	7.00	0.00	0.33	0.00	0.00	7.75	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	22	25	15	10							
	定点あたり	3.67	4.17	5.00	5.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数		2			2						
	定点あたり	0.00	0.29	0.00	0.00	2.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数		1						1			
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

* 第31週の報告数に一部変更があります。

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～第33週)

2類感染症	結核	130例(7)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	33例(2)				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	3例	つつが虫病	1例
	日本紅斑熱	3例	マラリア	2例	レジオネラ症	1例
5類感染症	アメーバ赤痢	3例(1)	ウイルス性肝炎	7例	急性脳炎	6例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	後天性免疫不全症候群	3例	梅毒	5例
	破傷風	3例	麻しん	1例		

()内は今週届出分、再掲

こども感染症情報

腸管出血性大腸菌感染症（O157 等）が増えています。（8 月 16 日～8 月 22 日）

O157 等の腸管出血性大腸菌感染症の報告が増えています。感染すると症状が出ない場合もありますが、激しい下痢や血便、腹痛、嘔吐、発熱などの症状をおこすことがあり、小さな子どもたちや高齢者では重症化する場合があります。

この感染症は、O157 等の菌に汚染された物を食べたり、患者の便に含まれる大腸菌が口にはいることで感染します。

この大腸菌は、感染力が強く少しの菌でも感染しますが、熱に弱いため、調理をするときに十分に加熱すれば殺菌することができます。調理の目安は、食材の中心部を 75℃で 1 分間以上加熱することです。

また、感染を予防する基本は手洗いです。患者本人は調理や食事の前、トイレの後に、家族は食事の前に必ず石けんと流水で手を洗いましょう。下痢をしている子どもや高齢者の排泄物を処理した後も忘れず行いましょう。患者はできるだけ家族の最後に入浴するようにし、浴槽には浸からずシャワー又はかけ湯を使いましょう。特に、乳幼児は患者の後にならないよう気をつけましょう。バスタオルを一緒に使うことも避けた方がよいでしょう。